

化学教育 徒然草

コロナ禍における 社会への貢献

KIMURA Noriyoshi

木村 憲喜

和歌山大学大学院教育学研究科 教授
2019年度～現在 日本化学会近畿支部 副支部長 化学教育協議会委員長



巻頭言

我々は、子どもから老人まで幅広く社会に貢献している。高校生や大学生はボランティアなどで地域貢献し、大人は社会で学んだことを家族や友人、子ども達に伝える。このように、我々は生きることで、さまざまな社会貢献をしているのである。

さて、私が現在所属している日本化学会近畿支部化学教育協議会では、長年、中学生から高校生、工業高等専門学校生などに学校での研究成果を発表できる機会を提供している。そして、この発表会には定年退職された先生も数多く参加し、活発な議論が行われている。また、近畿で開催される日本化学会春季年会では、小学生を対象とした実験教室「目指せ未来の科学者」を主催している。このように、化学教育協議会ではさまざまな社会貢献を行っている。

最近新型コロナウイルス感染症拡大のため、このような活動が制限され、オンラインなどで開催されるようになった。Zoomなどを使った発表会では、質問や回答において相互理解が難しい面があり、現在も試行錯誤を重ねている状況である。しかしながら、中学生や高校生、工業高等専門学校生らに研究成果を発表する機会を作ることはコロナ禍においても大変有意義であると考えている。

一方、小学生を対象とした実験教室も春季年会以外にも大阪教育大学や大阪府立大学工業高等専門学校でも行われ、毎年多くの小学生で賑わっている。さらに、化学の日「子ども化学実験ショー」にも参加し、子ども達にさまざまな実験を指導している。そして、これらの長年の実験指導技術は化学教育協議会で蓄積されている。昨年以降、小学生対象の実験教室は実施できていないが、一刻も早く新型コロナウイルス感染症の拡大が収束し子ども達が元気に実験している姿を見たいものである。

最後に、私も日本化学会近畿支部化学教育協議会のメンバーとして10年以上活動し、小学生や中学生、高校生、工業高等専門学校生など多くの子ども達や生徒と触れ合う貴重な機会を得ることができた。さらに、協議会のメンバーには、たくさんの学校の先生達が所属しており、多くの行事を支えてもらっている。今後もこのような活動を継続できることを祈っている。

[連絡先]

640-8510 和歌山県和歌山市栄谷 930 (勤務先)